



子供が主役の幼稚園



墨田区立第三寺島幼稚園 園長 関口 亮治

「子供が主役」の幼稚園づくりを目指す
～「豊かな体験」と「一人一人が輝くよさの発揮」～

保護者の願い～地域から信頼される幼稚園

保護者と教職員（幼稚園）の信頼関係を基盤に、その中で子供一人一人が大切にされ、その子らしさやよさを引き出す責任を果たす。また、生きる力の基礎を培う。そのために豊かなかかわりの中で、基礎となる体力、人とかかわる力・感性や表現する力を育てる幼稚園を目指す。

地域の願い～地域から信頼される幼稚園

地域と幼稚園の信頼関係、保護者の地域の信頼関係を築き、それぞれに責任を果たしながら地域に親しみをもち、人とかかわり合いを大切にできる子を育てる。幼稚園を中心に互いに信頼関係を構築することで、三寺幼稚園に誇りをもって通える子の育成を目指す。

東京都の目指す教育 東京都教育施策大綱

誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育
東京の目指す教育の実現に向け、基軸となる3つの「学び」

- ・子供の意欲を引き出す学び
- ・社会全体の力を生かした学び
- ・ICTの活用による学び

墨田区が目指す子供の将来像 墨田区教育施策大綱

- (1) 将来、社会で活躍し、地域に貢献できる自立した人
 - ・感性豊かでいろいろなことに興味・関心をもって学び、実践できる人
 - ・自己肯定感を育みながら、まわりの人の立場や気持ちを思いやることができる人
 - ・スポーツや遊びを通じて健やかな体を育むことができる人
- (2) 郷土に誇りを持ち、異文化とも敬意をもって積極的に交流できる国際感覚のある人

令和6年度における主要な教育課題 墨田区教育委員会

- ◆全ての幼児・児童・生徒の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現と確かな学力の定着
- ◆いじめ・不登校の対策強化
- ◆今日的な教育課題（自己有用感及び自己肯定感の醸成と非認知的能力を育む取組の推進等）

第三寺島幼稚園 教育目標と内容

◎元気によく遊ぶ子供

- ・意欲的に遊び、五感で感じ取り、自分なりに表現することを楽しむ。
- ・明るくのびのびと充実感を味わうよう、遊びの中で十分に体を動かす。
- ・健康な生活リズム・食の習慣を身に付け、暑さ寒さに負けず進んで戸外で遊ぶ。
- ・危険なことや災害について知り、安全に気を付けて行動する。

◎やさしい心をもった子供

- ・友達との関わりを深め、思いやりをもつ。
- ・自然や身近な動植物に親しみ、命あるものを大切にし、いたわる気持ちをもつ。
- ・高齢者や地域の方、異年齢の子供たちに親しみをもつ。

◎進んで取り組み、最後までやり抜く子供

- ・遊びや行事等を通して、自分なりの目標をもってやり抜き、夢中になる体験を積む。
- ・試行錯誤や協同することを積み重ね、友達や他の人との関わりを楽しみ達成感を味わう。
- ・「なぜ、どうして」など、興味や好奇心をもち、少しずつ自分の世界を広げていく。

教職員の基本姿勢 「子供が主役の幼稚園」

- 愛情をもって子供の思いや願いを受け止め、自立心や意欲を育てるよう、認め、励まし続ける指導を進める。
- 幼児理解に努め、一人一人の興味・関心を大切にし、日々の教育活動・環境づくりを振り返り、研究・研鑽に努める。
- 園の教育活動を進んで知らせ、保護者と共に子供の成長を喜び合う。幼稚園が親と子の温かい育ちの場となるよう、親身に接し、相談や支援に努める。大人も相互に学び合い成長する。
- 教師自身が子供の手本となる。チーム保育による効果的な教育活動の推進。明るく優しく公平で知性的な教師
- 保護者・地域・小中学校と連携し、豊かな関わりや具体的な体験の場を創り出す。

◎元気によく遊ぶ子供 ～豊かな体験と一人一人が輝くよさの発揮～

自然体験や生活経験を通して、自発的に活動することや、表現することを楽しむ意欲や態度を育てる。多様な遊びをとおして生きる力の基礎を育み、「自ら学び考え行動する力」につなげていく。

重点となる5つの領域における内容

墨田区研究協力園2年次
「一人一人が輝く幼児の育成」

幼保小中一貫
教育の推進
「主体的に学ぶ
子供の育成」

健康

- 自己の存在感を味わう。
- 園庭、小学校の校庭・体育館を活用した体を使った様々な遊び。
- 食育の充実。育てて作り食べる。
- 保護者と連携した健康な生活リズムや基本的な生活行動の定着。(早寝・早起き・朝ご飯・身の回りの始末)

人間関係

- 元気にあいさつ、ふわふわ言葉を使う。友達のよさをみつける。
- 試行錯誤や協同の繰り返しの中で、自分で考え行動する芽を育てる。
- 遊びの中で集団のルールや善悪の判断を身に付けさせる。また、自分の気持ちを調整することを学ぶ。
- 高齢者や小中学生・保育園児等との交流を通じた学びのある活動。

環境

- 身近な自然とふれあう環境づくり。動植物の世話・自然体験の広がり。
- 季節の行事・地域の伝統に触れる。
- 日常生活の中で数量や図形・標識や文字などに触れる。
- 知的な好奇心を高める働きかけをする。(実物・お話・掲示物・見学・絵本)

保育の重点

言葉

- 親しみをもって日常のあいさつを交わせるよう、まず大人が示す。
- 温かな人間関係の中で、安心して自分の思いを言葉で表現できるように促す。
- ふわふわ言葉等、集団で生活するための言葉や気持ちよい表現に気付かせる。
- 体験からイメージや言葉を豊かにする。
- 対話を大切にする。

表現

- 生活の中で様々な感じ取り十分に楽しむ。過程を大事にする。
- イメージを豊かにし、自分なりに、かいたりつくったりすることを楽しむ。遊んだり使ったりする。
- 音楽に親しむ。
- 感じたことを歌ったり身体表現をしたりして楽しむ。

【4歳児】

教員との信頼関係を基盤に、安心して自分の思いを表し、園生活を楽しむ。

【異年齢の関わり】

一人一人が自己を十分に発揮したり様々な感情体験を重ねたりし、互いのよさが生かされる喜びを味わう。

【5歳児】

自分の力を発揮し、友達と協力しながら遊びや生活を進める満足感を味わう。

特別支援教育の充実

家庭・医療・福祉関係機関との連携を図り、個別の支援を充実させる。計画的な支援体制を整える。